

..... 編集後記 .....

◆わが家の猫の額ほどの芝生を見て、今年の気候はおかしいのではないかと思っています。芝生は上には伸びるのですが、横に広がりません。日照不足のせいでしょうか。皆さんの所はどうでしょうか。

◆今年も高校生対象のサイエンスキャンプが近づいてきて房総半島に下見に行ってきました。昔、私が新入職員研修で房総半島を訪れた時には道路沿いに素晴らしい露頭があり、見事な砂泥互層を見ることができました。その記憶もあり、サイエンスキャンプの野外教室を房総半島にしたのですが、道路沿いの露頭はセメントの吹き付けですべて覆い隠され、まさに「消された露頭」の状態でした。道路の法面の崩壊を防止することは交通安全上必要なことかもしれませんが、いま一つ工夫はないものかと一人の地質屋として憤慨して帰ってきました。若い人に地質を理解して貰うためにはいろいろな場所に直接観察できる立派な地質露頭があることが必要です。このためには、各々の地方で地質巡検コース保存運動が必要ではないかと思いますが、いかがでしょうか。生活の利便性のみを追及するのは、そろそろ終りに

したいものです。

◆さて、今月号は利便性のみを追及した結果として引き起こされた地球環境問題に関連してサンゴの研究の最新情報を特集しました。私が学生だった頃は高度成長の時代で、人類の生活が地球に与える影響はあまりにも小さく、人類の生活が地球を変えると考えるのは人間の思い上がりであるとの講義を聞いたことがあります。この時代では一般的な認識だったのだと思いますが、その後、科学が急速に進歩して次々と新しい物質や生活形態を作り出し、地球の自然浄化作用を超えてしまったのが今日の状況でしょう。我々が現在の生活を維持しながら地球環境問題を解決する糸口を見つけるのは大変だと思います。

◆地球環境問題を考えるためには、昔の状況を再現して見るのが大切で、数百年前からの海の古環境を復元するためにはサンゴの成長過程に残された様々な現象の解析が必要だと、この特集に記事を投稿して下さった諸氏が述べていますので、ご一読下さい。  
(有田正史)

地質ニュース編集委員会

委員長：有田正史

副委員長：石井武政

委員：佐藤興平・今井 登・村上文敏・大熊茂雄

顧問：林 暉・石原舜三・大嶋和雄・高橋 博

事務局：総務部業務課広報係(谷田部信郎・吉田朋弘)

〒305-8567 茨城県つくば市東1-1-3

地質調査所 地質ニュース編集委員会

事務局 Tel. 0298-54-3520

Fax. 0298-54-3504

地質ニュースに関するご意見は編集委員会へ

地質ニュース	第527号	1998年	7月号
	定価	¥785 (本体価格 ¥748)	〒実費
1998年7月1日	発行		
編集	工業技術院地質調査所		
発行人	株式会社 実業公報社		
	代表者	林 光生	
発行所	株式会社 実業公報社		
	東京都千代田区九段北1の7の8	〒102-0073	
	Tel. (03)3265-0951(代表)		
	Fax. (03)3265-0952		
	振替口座 00110-6-32466		
	麹町局私書箱第21号		
印刷	株式会社	ケイ・トゥー・ワン	

© 1998 Geological Survey of Japan

●本誌は東京都の霞ヶ関政府刊行物サービスセンター、八重洲ブックセンター本店およびつくば市の友朋堂書店本店に常備してあります。また、最寄りの書店でも注文できます。